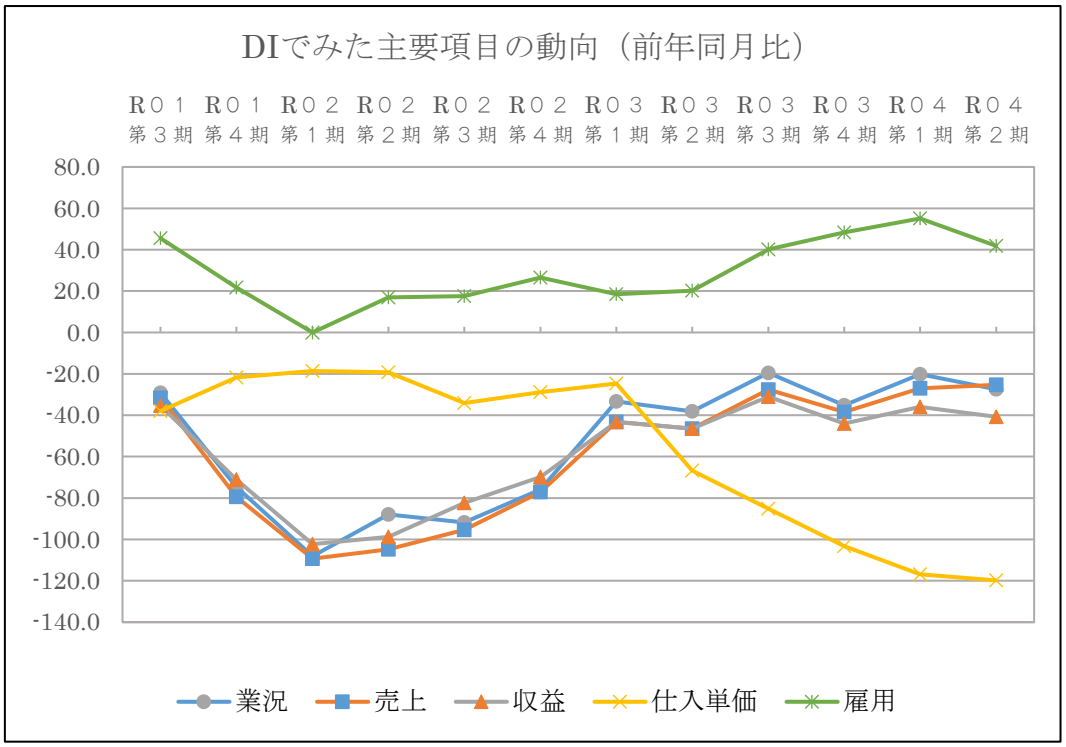
景気動向調査　令和４年度・第２期（令和４年７月～令和４年９月）

調査概要

調査対象:赤穂商工会議所管内　120社
回収:91社　　回収率:75．8%
調査対象期間:令和4年7月～令和4年9月（令和4年度・第2期）
DI値:「良い＋やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い＋悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計ＤＩ

区分	R4第1期 （R4年4月～6月）	R4第2期 （R4年7月～9月）	先行き見通し （R4年10月～12月）
業況	△20.2	△27.5	△14.3
売上	△27.0	△25.3	△4.4
収益	△36.0	△40.7	△24.2
仕入単価	△116.9	△119.8	△95.6
雇用	55.1	41.8	34.1

※雇用 DI については、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査（R4 年 1 期）に比べ 7.3 ポイント下降の△27.5 となった。売上 DI は 1.7 ポイント上昇の△25.3、収益 DI は 4.7 ポイント下降の△40.7 となり、また仕入単価は 2.9 ポイント下降で△119.8、雇用 DI は 13.3 ポイント下降の 41.8 となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果（R4 年 2 期）に比べ 13.2 ポイント上昇の△14.3 で、売上DIは 20.9 ポイント上昇の△4.4、収益DIは 16.5 ポイント上昇の△24.2、仕入単価DIは 24.2 ポイント上昇の△95.6、雇用DI は 7.7 ポイント下降の＋34.1 となっている。

売上ＤＩ

区分	R3 第 2 期	R3 第 3 期	R3 第 4 期	R4 第 1 期	R4 第 2 期	先行き 見通し DI	先行き 期待感
全体	△46.4	△27.6	△38.5	△27.0	△25.3	△4.4	20.9
建設業	△56.3	△42.9	△66.7	△73.3	△26.7	△6.7	20.0
製造業	4.0	△3.6	△17.9	△44.0	△12.0	4.0	16.0
卸売業	△88.9	△37.5	△54.5	△66.7	△50.0	△20.0	30.0
小売業	△77.3	△78.3	△63.6	△3.8	△52.0	△20.0	32.0
サービス業	△71.4	37.5	25.0	66.7	30.0	40.0	10.0
不動産・運輸業	△20.0	16.7	△28.6	△20.0	△16.7	△16.7	0.0

○産業別の売上DIは前回調査（令和4年1期）と比較すると、建設業が△26.7（＋46.6 ポイント）、製造業が△12.0（＋32.0 ポイント）、卸売業が△50.0（＋16.7 ポイント）、不動産・運輸業が△16.7（＋3.3 ポイント）で改善、小売業が△52.0（△48.2 ポイント）、サービス業が 30.0（△36.7 ポイント）で悪化となった。

また、全体の先行き見通し DI は今回調査結果（R4 年 2 期）と比較し△4.4（＋20.9 ポイント）となっている。

経営上の問題点
（上位３項目）

区分	R3 第 2 期	R3 第 3 期	R3 第 4 期	R4 第 1 期	R4 第 2 期	前回調査比
売上の停滞・減少	57.6	31.0	34.1	28.1	27.5	△0.6
原材料高	19.7	19.5	24.2	28.1	25.3	△2.8
人手不足	24.2	18.4	18.7	18.0	16.5	△1.5

○事業所からのコメント

建設業：仕入単価が一ヶ月で変動したりするので、見積もり・請求時の見直しに時間が取られている。

卸売業：主原材料が 10 月に 20%値上げ。1 月頃には 30%値上げが予告されている。価格転嫁できるか非常に心配。

小売業：エネルギーコスト上昇による収益悪化が下期も続くと思われる。

小売業：ウクライナ戦況の航路縮小により納期が大幅に遅れている。

サービス業：募集をするが、なかなか応募のない状況が続く。

<参考>

有効求人倍率

区分	R4.8月	R4.7月	R4.6月
一般（常用）	1.07	1.16	1.19
パート（常用）	1.55	1.50	1.38
一般+パート（全合計）	1.27	1.31	1.28